

緊急通報装置：人感センサーマニュアル

2. 緊急通報システム事業とは

CONFIDENTIAL

2-6. 人感センサーの特徴

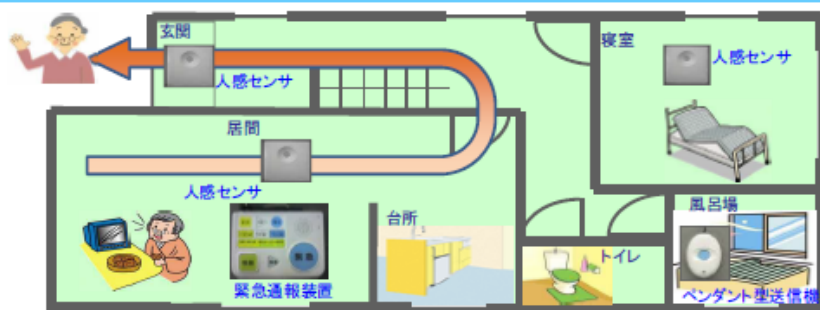
TATEYAMA

人感センサーは、赤外線により人感を検知し、ご高齢者宅内の生活の中心となる「居間」「寝室」「玄関」の3か所(基本)に設置することにより、

☆ご高齢者に何もして頂かなくとも、外出・在宅を自動判定でき、一定時間センサーの検知回数が少ない場合には、緊急通報装置を経由して「立山コールセンターへ自動通報」を行います。

☆検知したセンサーデータにより「ご高齢者の生活状況(情報)を把握」することができます。

☆生活状況(情報)を活用した「予兆管理により介護予防などに役立てる」ことが可能になります。



© TATEYAMA KAGAKU CO., LTD.

- 10 -

●感知の時間帯

・4:00～9:00の間に240分間検知がない場合

・15:00～20:00の間に270分間検知がない場合

2. 緊急通報システム事業とは

CONFIDENTIAL

2-7. 人感センサーによる生活状況(情報)の把握

TATEYAMA

ある1日のデータ例

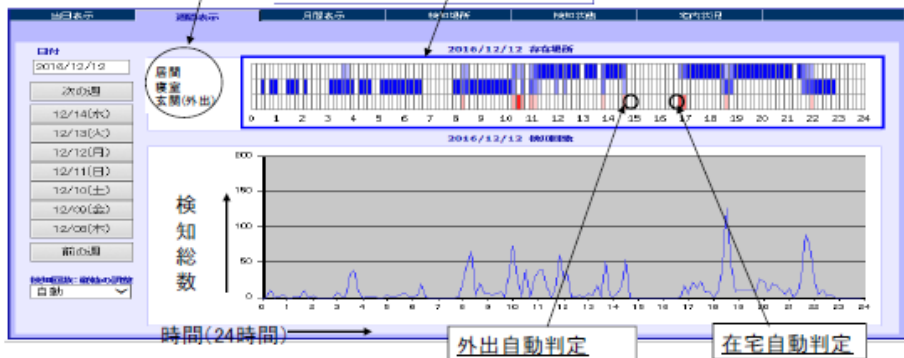
横軸が時間軸(24時間)

各時間帯にどの部屋でセンサーの検知があったか確認出来ます。
検知した回数が多いほど、濃い色で表示します。

各居室のセンサー設置場所

アラームは発生していません

4日間検知なし



このセンサーシステムは、センサーによる自動通報と同時に、緊急相談センターへ通報がある3日前までデータを送ることができます。上の図のようにどの場所で、何時ごろまで、どのくらい検知があったか生活状況(情報)を把握することが可能です。

© TATEYAMA KAGAKU CO., LTD.

- 11 -

宿泊した場合でも通報は上がりません

- ・外出センサーを通過して外出し、宅内に検知が無い場合は、外出判定
- ・外出センサーを通過して宅内に入り、宅内のセンサーに検知がある場合は、在宅判定

留守中に外出センサー以外のところから入った場合、本人に電話があります。

外出センサーを通らずに外出し、①の判定時間に検知が無かった場合に通報が上がります。